

【評価報告書】

学校法人岡田学園
認定子ども園白梅幼稚園

認定子ども園第三者評価結果報告書

報告内容	公表／非公表	ページ
運営法人情報	公表	P1~2
理念・基本方針		
施設の特徴的な取組		
第三者評価結果の総評		P3~4
第三者評価結果		P5~16
第三者評価確認書類リスト	非公表	P17~P19
第三者評価結果（詳細）	非公表	P20~P36

(一財) 全日本私立幼稚園幼児教育研究機構

【運営法人情報】

施設名称	認定こども園 白梅幼稚園
運営法人名称	学校法人 岡田学園
施設種別	幼保連携型 認定こども園
代表者氏名	理事長 岡田 薫
施設所在地	☎869-0562 熊本県宇城市不知火町長崎 2209 - 1
電話番号	0964 - 33 - 7171
FAX 番号	0964 - 32 - 3135
ホームページアドレス	http://umenoko.ed.jp/
メールアドレス	shiraume@ray.ocn.ne.jp
事業開始年月日	昭和 57 年 4 月 1 日
保育者数・職員数	20 人・9 人
施設・設備の概要	園地総面積 6,137.645 m ² 園舎敷地 1,307.410 m ² 運動場 1,372.578 m ²

【理念・基本方針】

事業の目的	「教育基本法」及び「就学前の子供に関する教育・保育等の総合的な提供の推進に関する法律」に従い、教育及び保育を行うことを目的とする
理念	誰のために、何のために
教育保育テーマ	好奇心で満たそう（2024 年度）
目指すこども像	愛されていると実感できる子ども
経営理念	自己研鑽・切磋琢磨・信頼し合える教職員関係
経営方針	多様な子育て環境や教育・福祉に対し、温かみのある対応を行い、それぞれが目の前の事や日々の業務を柔軟に効率よく行う

【施設の特徴的な取組】

幼保連携型認定こども園教育・保育要領で示されたねらい・内容にそって子どもの姿をベースに保育計画を立案。

保育・教育の質を高めることを目的に、園内で継続的に、また子どもたちの将来像をイメージし、保育の中に経験や体験を増やすことで、社会で生きるための素地づくりをする。

【評価機関情報】

評価機関名	(一財)全日本私立幼稚園幼児教育研究機構
評価実施期間	令和6年 11月 1日
評価者	H27A00327、H29B00644
ECEQ®コーディネーター	EH29430256、EH26430113、EH28440219、 ER01430330、ER04430402、EH28430218、 ER04430403

【総評】

●総合評価

評価〔 A 〕

白梅幼稚園は創立以来、認定子ども園として質の高い幼児教育・保育の提供と地域の子育て支援等に関して重要な役割を担い続けている園であり、保護者からは白梅幼稚園の教育・保育に関する信頼も厚い。

それらの園の良さは、園長・副園長等のリーダーシップのもと教職員間の同僚性の良さを基盤として、子どもをまんなかにおいて常に保育のアップデートを続けていることにある。

また、食育への取り組みや、小学校との交流等の現代的な課題の解決にも注力し、地域の資源や人材を活用しながら、子どもたちの思いに寄り添いながら多様な経験ができるよう工夫されている。認定子ども園として現在の教育・保育を保障しつつ、さらに地域に根ざした地域になくしてはならない園として今後もさらなる質の向上に取り組んでいくことを期待する。

●特に評価が高い点、園の良さ等

子どもの主体性を育むことが幼児期の大きな課題となっているが、白梅幼稚園では、子どもがやりたいと思うことを保育者がなんとかして叶えようとする園の風土が非常に素晴らしく、子どもの主体性の育ちが保育者の主体性によって支えられている希少な園である。

園舎も保育実践を行う上で保育者の意見を取り入れ、園の方針にも合致するよう増改築をしている。避難確認として各部屋の避難を内外から一目で全員が避難できたか確認できるよう工夫されていた。宇城市の保育所等指導監査結果を確認し、施設運営管理・保育内容・施設経理について文章・口頭指摘もなく適正な運営、教育保育が行われている。

●課題、改善を求められる点

質の高い優秀な教職員により現在も質の高い教育を実践している白梅幼稚園ではあるが、さらに子どもの主体性の育ちを支えていくために、保育室内や園庭の環境の充実を図る余地は見受けられた。子どもの興味・関心を起点として保育者の願いを込めた環境構成に取り組んでもらいたい。また、乳児の保育室に関してはその空間構成や家具、玩具等について充実を図ってもらいたい。

運営面においては園が土砂災害危険箇所（急傾斜崩壊危険箇所）と土砂災害警戒区域（特別警戒区域）である。地震や豪雨等での土砂災害を想定し訓練は行われているが、土砂災害がどこで起きたらどこに避難するなど、複数の避難場所のマニュアルを作成し徹底することで、子どもたちの意識の醸成が図れるのではと感じた。

また、避難場所が園内だけになっているので、第2避難場所近隣指定緊急避難場所を設定し地域・保護者に周知をしていたほうが良い。

園舎についてはガラスの抑えゴム（ゴムパッキン）の経年によって材質の硬化により、縮みが発生し機能を果たせなくなっている箇所があったので修繕を求める。

●第三者評価結果に対する法人・施設のコメント

保育・教育が変わっていく時代の流れに乗り遅れることなく、目の前の子どもたちに質の高い保育を提供したいとの思いで、職員間で研修を重ね、同僚性を育みながら、また、子ども達の姿に学びながら、少しずつ前進している。

そのような歩みを、今回の評価結果から読み解くことができ、安堵すると同時に園としての肯定感もあがった。

ご指摘いただいた、園舎の経年劣化による修繕等については、今後計画的に着手し園環境として考え整備していきたい。

【第三者評価 結果】

I 保育の公開に伴う保育のプロセス評価

事前訪問時に抽出された自覚的な良さや課題

(良さ)

- ・公開保育の経験とその振り返りを活かしていきたいという姿勢がある。
- ・職員間の仲が良好で、園長をはじめリーダー間の連携が強い。
- ・話し合いを綿密に持ち、納得できる“着地点”を探そうとしている。
- ・自然豊かな環境、子ども主体の保育、働きやすい職場環境等の園の良さがある。

(課題)

- ・職員の仲の良さが“慣れ合い”にならず、互いの保育について積極的に意見交換できていない。
- ・子どもたちへの関わり方について励ますばかりでなく、手を差し伸べる姿勢が必要。
- ・保育の振り返りを通して、反省点を導きだし、適切な打開策を考えられていない。
- ・3歳未満児から3歳以上児への生活が大きな段差になっている。
- ・保育者に余裕がない、保育者の熱量の差がある、保育者のスキルアップが求められる。
- ・保護者との関わり、発信力の充実が求められる。

2. 公開保育実施前後における課題等

①公開保育実施時の課題等

- (0歳児) ・五感を育むための取り組みが「遊び食べ」にならないような工夫。
 - ・室内で、子どもたちがじっくり遊び込める環境づくりのアイデア。
- (1歳児) ・クッキングの際の安全対策と他園での工夫。
 - ・トラブルが多い時期にふさわしい遊びであったか。
 - ・空間の設定等のいいアイデア。
- (2歳児) ・集団遊びや製作場で子どもの育ちが見られたか。気付いたことは。
 - ・保育者と子どもの個別でのかかわりや言葉かけで気付いたことは。
- (3歳児) ・子どもたちの意見を大切に話し合いの仕方。
 - ・多数決だけで決めていいのか。
 - ・個々の子どものペースの違いへの対応。
 - ・『命を食べること』をどのように伝え、活動に取り入れるか。
- (4歳児) ・他園での「遊びの広がり」「継続的に楽しめる活動」のアイデア。
- (5歳児) ・製作活動を通して、どのような力が子どもたちに育っていると感じたか。
 - ・異年齢の子どもたちも巻き込んで、好きな遊びをもっと広げるための実践や取り組みは。

②公開保育後の協議会における外部から見た良さや課題

(良さ)

- ・一人ひとりの発達にそった保育内容だった。
- ・自然環境が素晴らしい。
- ・子どもの興味関心を最大限に生かそうという努力がみられた。子どもの「やりたい」が実現できる環境がある。
- ・保育者の関わり方が丁寧で、優しく的確に行われていた。
- ・子どもたちに寄り添った言葉がけの工夫がみられた。
- ・保育者自身が活動を楽しんでいた。喜びの共有。
- ・保育者のチームワークの良さ。

(課題)

- ・保護者対応の難しさ。
- ・子どもの主体性、自主性をどのように伸ばしていくのか。
- ・活動にもっと的確な目的を持った方がいいのではないか。

3. 事後の園内研修において整理された良さや課題ならびに課題解決の方策

(良さ)

- ・子どもの好奇心を満たせる保育ができる環境に感謝。
- ・子どもの成長を、食育を通してみることができた。
- ・職員同士が尊重し合える関係であること。
- ・日常の保育の中で、喜びを感じ合える関係性（子どもと保育者）が持てている。

(課題)

- ・子どもの気持ちを尊重するとは？集団と個の在り方。
➡保育者の更なる学びが必要。研修を実践的に保育に活かしていく。
- ・特別な配慮が必要な子どもへの対応をもっと工夫したい。
➡専門的知識の構築。関わる保育者の関係性を深める。（チーム保育の重要性）
- ・保護者に伝えたいが伝わらないもどかしさがある。
➡これからの課題として、検討する。
- ・学年間の交流が少ない。
➡縦割り保育を試してみる。

Ⅱ. ヒアリング等・書面等による評価

< A 教育・保育 >

① 子どもの人権、安全と健康

	調査項目	確認結果
1	一人一人の子どもの家庭環境や人種、文化等の違いを知り、異なる意見や価値観を認めあう心を育てよう努めている。	済・未
2	子どもや保護者、同僚を傷つけるような差別的な言葉や態度をしていない。	済・未
3	身体、性、年齢、発達之差等、生来的な差によって子どもに不当な不利益を与えるような言動やシステムがない。	済・未
4	園庭の環境（空間と遊具）や室内の環境（家具や動線）の安全性を、保育の中で注意・改善する視点がある。	済・未
5	子どもの成長や食べる意欲が大事にされた食育（食べることの全ての営み）がなされている。	済・未
6	園生活に必要な一つ一つの生活習慣が、保育者と子どもに、共に大切に扱われている。	済・未
7	全ての子どもが「いる」だけで認められる、心理的な安全・安心が子ども集団（学級）のなかにある。	済・未
8	園生活の中で、大切にしたい信心（特定の宗教を含む）が自然と保育に融けこみ、子どもたちに愛情や感謝の気持ちが育っている。	済・未
(コメント) 子どもの安心・安全を大切にする姿勢が感じられる。		

②保育者等の資質向上・研修

	調査項目	確認結果
1	豊かな人間性を備えた保育者になることを、園として大切に考え支援している。	済・未
2	保育者等の資質向上のためには、遊びと生活の専門性を高めることが必要であるという共通理解のもとに、教育・保育が行われている。	済・未
3	自園の教育・保育理念を十分に理解し、日々の実践に活かしている。	済・未
4	公開保育を通して、教育・保育の質を高める取組ができています。	済・未
5	職場における同僚性の向上を意識し、保育者集団としての力量を高めようとしている。	済・未
6	保育者等一人一人が社会人としての自覚をもち、その役割を果たすことができるように、組織的な取組をしている。	済・未
7	子どもと関わることを喜び、子どもの遊びが豊かに展開されるような教育・保育をしている。	済・未
8	保育者等一人一人が向上心を持って、研修など様々な学びの機会を得ようとする風土が園としてできている。	済・未
<p>(コメント)</p> <p>積極的に保育の質向上に取り組んでいる。</p>		

③教育・保育における実践

1) 子ども理解

	調査項目	確認結果
1	乳幼児期の発達の過程を踏まえながら、一人一人の子どもの内面的な心情や意欲をくみ取り、様々な力を培っている姿を保育者全体が理解しようとする風土を持っている。	済・未
2	子どもの姿や育ち、実践について様々な手法（日誌、環境図、エピソード、写真、動画等）を用いて記録し、一人一人の子ども理解に努めている。	済・未
3	子どもの記録を園内での振り返りや園内研修等に活用し、子ども理解の共有を保育者間で図り、必要な援助を考え環境の構成を見直すなど、保育の計画に活用している。	済・未
4	遊びや活動の意味についてそれが子どもの成長とどう関連しているのか、記録を通じて理解し、実践に繋げようとしている。	済・未
5	園での子どもの育ちを保護者と共有しようと心掛け、家庭環境や家庭での育ちの状況も考慮しながら、子ども理解の幅を広げようと努めている。	済・未
6	特別な配慮を必要とする子ども一人一人の理解に努め、その子に応じた個別の指導計画を作成し、必要な援助を組織的、計画的に実践につなげている。	済・未
7	特別な配慮を必要とする子どもの家庭や専門機関、小学校等とも連携しながら、家庭支援や引継ぎ等における特別支援教育の幅広い環境整備を心掛け、多面的なアプローチで子ども理解を図っている。	済・未
<p>(コメント)</p> <p>子どもの思いを大切にしようとする姿勢が感じられる。その思いを可視化し、手立てを具体化する話し合いの様々な手法に取り組んでもらいたい。</p>		

2) 教育・保育の計画

	調査項目	確認結果
1	幼稚園ないし幼保連携型認定子ども園の全体的な計画における教育課程と指導計画は、子どもの発達の姿から、自園の教育・保育理念と、幼稚園教育要領、幼保連携型認定子ども園教育・保育要領に即して作成している。	済・未
2	子どもの発達の過程や発達の連続性を見据え、各園の教育・保育の理念や目標に基づいた保育計画によって実践を展開するために月案や週案等を作成して、実践につなげている。	済・未
3	日々の実践を振り返り評価し、明日の実践に反映し、教育・保育の質が向上するように計画を見直している。	済・未
4	個別に対応する必要がある場合については、個別の指導計画を作成している。	済・未
5	保護者の理解と支援の下に実践ができるように幼稚園ないし幼保連携型認定子ども園の全体的な計画における教育課程は、保護者等に開示されている。	済・未
6	幼稚園教育要領、幼保連携型認定子ども園教育・保育要領の理解が深まる仕組みがある。	済・未
7	計画は実践につながりながら、気候やその日の子どもの状態等に即して柔軟な対応がなされている。	済・未
<p>(コメント)</p> <p>要領・指針の理解を基に園の理念を具体的な教育・保育活動に落とし込む仕組みのさらなる充実を目指してもらいたい。</p>		

3) 環境の構成

	調査項目	確認結果
1	<園舎等の空間>子どもたちが遊び込むことができる時間の配慮、自由な遊びコーナーなど、子どもの自主性・自発性を尊重すると共に、子ども同士の関わりや遊びが豊かに行われる空間環境が工夫されている。	済・未
2	<遊具・家具・絵本・廃材などについて>子どもの成長に合わせた遊具や絵本が、子どもの手の届く場所に適切な量で用意され、子どもが自由に選び、興味をもって関わり、考えたり、試したりして工夫して遊びを展開できるよう配慮されている。	済・未
3	<園庭について>外気に触れ、自然を感じ、興味を持って自ら移動、探索する楽しさを存分に味わい、体を動かす楽しさを味わうことができ、かつ、子どもが安心して遊べる安全面に配慮された園庭等が確保されている。	済・未
4	<動植物の飼育、栽培について>身近な動植物に親しみを持って接し、飼育や栽培を経験することで生命の尊さに気付き、いたわったり、大切にしたりする環境が確保されている。	済・未
5	<表現活動について>多様な表現活動を経験でき、自ら興味を持って関わり楽しめる工夫や継続して活動できるような環境の構成がされている。	済・未
6	<数量・図形・文字標識などの環境について>数量や図形、文字や標識に自然に触れ合えるような環境が工夫されている。	済・未
7	<衛生管理について>施設内の清掃が行き届いており、保育室・トイレ等の清潔が保たれ、子どもたちが使用する備品類の消毒が行われている。また、自分の健康に関心が持てる工夫や、病気予防のための配慮がされている。	済・未
8	<メンテナンスについて>手洗い場や机・椅子等、子どもの身体にあった大きさを整えられ修繕されている。	済・未
<p>(コメント)</p> <p>素晴らしい環境であるが、「乳児の環境」・「子どもと共に作る環境」という視点でのさらなる充実を目指してもらいたい。</p>		

4) 実践

	調査項目	確認結果
1	<p>乳幼児期にふさわしい生活が展開されている。</p> <p>(1)子どもが保育者を信頼し、自分が受け入れられ見守られているという安心感を持って生活できるような配慮をしている。</p> <p>(2)興味や関心に基づいた直接的、具体的な体験の積み重ねを大切にした教育・保育が行われている。</p> <p>(3)子どもが友達と十分にかかわって生活できるような配慮をしている。</p> <p>(4)子どもの発達の過程に応じて、適切な運動と休息をとることができるようにしている。</p> <p>(5)在園時間の異なる子どもが落ち着いて過ごせるような配慮をしている。</p>	<p>済・未</p>
2	<p>子どもの生活や遊びが豊かに展開されるよう工夫している。</p> <p>(1)子どもが主体的に、遊び込める時間と空間を保障している。</p> <p>(2)子どもが自分の目的を持って、考えたり、試したり、工夫したりする過程を大切にしている。</p> <p>(3)子どもの主体的な活動を促すために、保育者が多様な関わりを持ち、様々な役割を果たすように努めている。</p> <p>(4)子どもが周囲の自然に親しみを持ち、それらを生活や遊びに取り入れたり、生命を大切にする気持ちが養われたりするような援助をしている。</p> <p>(5)子どもの発達の過程に応じて、協同して遊ぶ活動を取り入れ、友達同士が互いの存在を認め合い、一緒に遊ぶ楽しさや喜びが味わえるような援助をしている。</p>	<p>済・未</p>
3	<p>遊びを通した総合的な指導を行っている。</p> <p>(1)子どもが主体的に環境にかかわって遊びを展開する中で、心身の発達にとって必要な経験が相互に関わりながら積み重ねられている。</p> <p>(2)子どもが発達していく姿を様々な側面から総合的に捉え、指導している。</p>	<p>済・未</p>
4	<p>子ども一人一人の特性や発達の過程に応じた指導をしている。</p> <p>(1)子ども一人一人の発達の過程や生活環境等を把握し、その子の発達の特性や発達の課題を理解して指導をしている。</p> <p>(2)子どもが主体的に周囲の人や物に働きかけることができるよう、環境の構成を工夫している。</p> <p>(3)子ども一人一人が自分の思いや考えを出していく中で、互いの違いを認め合い、尊重し合う心が育つような援助をしている。</p> <p>(4)特別な配慮が必要な子ども(障害のある子どもを含む)の教育・保育に当たっては、ほかの子どもとの生活を通して共に成長できるように援助している。</p>	<p>済・未</p>

5	<p>行事等を通して、園生活に変化や潤いを与えられるよう工夫している。</p> <p>(1)季節の行事や誕生会等を通して、子どもが季節感や文化などを体感できるようにしている。</p> <p>(2)子どもが行事に期待感を持ち、主体的に取り組んで、喜びや感動、達成感が味わえるような配慮をしている。</p> <p>(3)園の行事に地域の人々の参加を呼び掛けたり、地域の行事に参加したりする等、子どもが地域の人々と交流し、社会に対する興味や関心を持つような機会を作っている。</p>	済・未
<p>(コメント)</p> <p>子どもの生活や遊びが豊かに展開されるよう工夫できている。</p>		

5) 記録・振り返り

	調査項目	確認結果
1	個人の記録や集団の記録、エピソード記録等、子どもの状態と園の方針や仕組み等の状況に応じて、必要な記録を適切に行っている。	済・未
2	記録を客観的に振り返ったり、保育者間で話し合ったりして、次の教育・保育の計画に活かしている。	済・未
3	適宜、実践の振り返りと評価をする機会がある。	済・未
4	情報共有ができる同僚性の豊かな保育者集団の中で、園としての評価結果の共有や課題発見が行われ、計画・実践に適切に反映されている。	済・未
5	園内で共有された子どもの育ちや実践の過程、または評価結果について、保護者や地域社会等の園外に向けて適切に発信し、共有していく努力をしている。	済・未
<p>(コメント)</p> <p>様々な取り組みを積極的にしたり、記録をもとに客観的に振り返り、保育者間で話し合ったりして、教育・保育の計画に活かすことができている。</p>		

④家庭や小学校、地域との連携

	調査項目	確認結果
1	小学校教育との円滑な接続のために教育・保育の内容を工夫している。	済・未
2	子どもの成長発達について保護者との連携を行い、保護者が安心して子育てをすることができるよう支援を行っている。	済・未
3	自己評価・学校関係者評価に取り組み、その結果を保護者や地域に伝える等、園全体で教育・保育の質の向上のために改善がなされるよう手立てを行っている。	済・未
4	子育て親育ちの場として、地域における子育ての支援に関するセンター的役割を果たしている。	済・未
5	教育時間終了後等に行われる保育は、子どもの生活にふさわしい指導計画の下に行っている。	済・未
6	地域の資源を積極的に活用し子どもが豊かな生活体験を得ることができるような機会を設けている。	済・未
<p>(コメント)</p> <p>自己評価・学校関係者評価に取り組むとともに、地域における子育てニーズを把握し、子育て支援センター的役割を果たしている。</p>		

Ⅱ. ヒアリング等・書面等による評価

< B 運営 >

① 運営体制

	調査項目	確認結果
1	教育・保育に対する理念や方針が明確である。	済・未
2	コンプライアンスを遵守し、管理体制を構築している。	済・未
3	会計事務を適切に行っている。	済・未
4	人材確保や継続して勤務できる職場環境である。	済・未
5	教育及び保育の質を向上させるための運営体制が整備されている。	済・未
6	適切な教育環境を維持するために必要な財源が確保されている。	済・未
7	学校評価を実施している。	済・未
8	適正な法人運営を行っている。	済・未
<p>(コメント)</p> <p>社会に開かれた教育課程を実践し幼稚園運営、幼児教育に取り組んでいる。運営面では教育・保育の理念が教職員や保護者に対して明確に示されている。</p> <p>法人運営では学校評価を適正に実施することに加えて公開保育を実施するなど教育の質の向上に取り組んでいる。また、教育課程を実践していくために人的又は物的な体制を確保して改善していくなどを通して全職員の協力体制の下、組織的かつ計画的に教育活動の質の向上を図っていることが確認できた。会計面においても公認会計士による監査を実施し適正に運営されている。</p>		

②安全管理

	調査項目	確認結果
1	自然災害や事故等を想定した危機管理マニュアルを策定し、訓練を実施している。	済・未
2	教育・保育における危機管理マニュアルを定期的に見直している。	済・未
3	園舎、遊具及び車両の安全点検や環境のチェックを定期的に行い、必要に応じ改善を行っている。	済・未
4	園児の衛生・健康管理に努めている。	済・未
<p>(コメント)</p> <p>避難場所が園舎又は園庭となっているが土砂災害危険箇所(急傾斜崩壊危険箇所)であり、付近も土砂災害警戒区域(特別警戒区域)なので第2避難場所近隣指定緊急避難場所を設定し地域・保護者に周知をしていたほうが良い。</p> <p>園舎については安全点検等が行われ子どもたちに危険の無いよう配慮されているが、ガラスの抑えゴム(ゴムパッキン)の経年によって材質の硬化により、縮みが発生し機能を果たせなくなっている箇所があった。</p>		

③子育ての支援

	調査項目	確認結果
1	子どもの発達や学びが、小学校教育につながるように小学校との連携をはかったり、地域の関係機関や団体と連携をはかっている。	済・未
2	園児の成長を通じて、保護者の親育ちを支援する取組を行っている。	済・未
<p>(コメント)</p> <p>近隣小学校と子ども同士の交流等、職員同士の連絡協議会、架け橋期のカリキュラムの構築等を行っている。保護者に対して、保育の様子や子どもの育ちをドキュメンテーションや各種のお便り等で伝えている。園庭開放等により地域の子育て支援にも取り組んでいる。</p>		